

開催主旨

古代より人類が利用してきた天然素材のひとつ「ラック」。ラックカイガラムシが分泌した樹脂は接着剤や塗料として、また、虫に含まれる赤い色素は「**臙脂**」とも呼ばれ、絵画や染色品に用いられてきました。第1回は、日本に生息しないラックの生産地の状況を中心とした講演を行いました。第2回は、年代が明らかな世界最古のスティックラック「**紫礦**」を所蔵することで知られている、正倉院の宝物の一部を目にすることができる年に一度の機会「正倉院展」の開催期間中に開催し^{*}、正倉院宝物とラックの関わりについてお話ししていただく講演会を企画いたしました。

さらに今回、1924年にインドラック研究所として設立したインド天然樹脂研究所の所長を昨年6月まで務められた、ランガナン・ラマニ博士を日本に初めてご招聘し、長年ラックカイガラムシとラックに関わられてきた立場より、ラックカイガラムシの生態と現地での加工についてお話いただけることとなりました。最後に、ラックを加工する企業の立場から、現代日本でのラックの加工と利用をご説明いただきます。古代から現代まで、科学的な視点を通したラックの特性を知ることにより、様々な分野でより明確なラックの未来像を描くきっかけとなればと願っております。

^{*}2016年の正倉院展は10月22日(土)から、11月7日(月)まで、奈良国立博物館で開催されますが、「紫礦」の出陳はありません。

講演者略歴 (敬称略)

Ranganathan Ramani (ランガナン・ラマニ)

元インド天然樹脂研究所所長、前インド農業生物工学大学組織長。マドラス大学で昆虫学、昆虫生態学を学び、ランチャー大学で昆虫学博士号を取得。1978年よりインドラック研究所(現・インド農業研究評議会インド天然樹脂研究所)に勤務。ラック生産部門長を経て2010年から2015年6月までインド天然樹脂研究所所長。2012年10月より2016年1月までインド農業研究評議会インド農業生物工学大学組織長を務める。

中村 力也 (なかむら・りきや)

宮内庁正倉院事務所保存課 調査室長。2004年3月名古屋大学大学院生命農学研究科博士後期過程修了。博士(農学)。2005年4月より宮内庁正倉院事務所研究員として、正倉院宝物における有機素材の保存・科学分析に従事。

ポスター・資料展示 (敬称略)

会場内でラックに関わる研究調査のポスターや解説、関係資料の展示を行います。

- ・「インドでのラックの利用(仮題)」ランガナン・ラマニ(元インド天然樹脂研究所 所長)
- ・「江戸時代中期小袖友禅彩色、天然染料によるラックの赤色発色」中村 康人(染技連小袖研究会)
- ・「ブータンの伝統染織品に使われた染料の同定に関する非破壊的研究」麓 泉(京都府所管〈公財〉覚誉会 繊維染色研究所 顧問)
- ・「シルクロードの壁画にみられる有機赤色について：ラックレジンの検討」「ラックレジンを用いた想定復元へ向けての色見本」谷口 陽子(筑波大学)、島津 美子(国立歴史民俗博物館)、中神 敬子(日本画家)
- ・「ブータンのラック養殖と利用の現状」青木 薫(ブータン日本語学校)、北川 美穂(京都府立大学)
- ・「欧米の擬似漆技法“ジャパニング”について」北川 美穂(京都府立大学)
- ・「ラックを用いた工業製品の展示」日本セラック協同組合

成瀬 正和 (なるせ・まさかず)

元宮内庁正倉院事務所保存課保存課長、東北芸術工科大学客員教授・関西大学非常勤講師。1976年埼玉大学理工学部化学科卒業、1978年東京藝術大学大学院美術研究科保存科学専攻修了(芸術学修士)。1983年宮内庁正倉院事務所入所、2016年3月同所退職。著書「正倉院宝物の素材」(2002)、「正倉院の宝飾鏡」(2009)、他共著、論文多数。

森 大輔 (もり・だいすけ)

株式会社岐阜セラック製造所 天然物抽出事業開発部長。2004年3月名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程前期課程修了。2004年4月株式会社岐阜セラック製造所に入社。セラックの化学成分研究、製品開発及び有用天然物の生理活性探索に従事。

ラックカイガラムシの1齢幼虫
(体長約0.8mm)



アクセス

会場：教養教育共同化施設 稲盛記念会館 1階 104号講義室
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-5
京都府立大学下鴨キャンパス内

- JR京都駅、阪急烏丸駅から
地下鉄烏丸線「北山」駅下車 1番出口から南へ徒歩7分
市バス4系統 上賀茂町行き「北園町」下車 西へ徒歩5分
- 京阪出町柳駅から 市バス1系統「府立大学前」下車 北へ徒歩5分
- JR二条駅から 市バス206系統「府立大学前」下車 北へ徒歩5分

